

平成 30 年度生涯学習施設実習・研究活動報告

多様な学びが拓くコミュニティづくりの可能性

—教育からスポーツ・環境・福祉・観光・産業・信仰まで波及展開する
学習地域づくりの諸相—



平成 31 年 3 月

大正大学社会教育主事課程

【目次】

多様な学びが拓くコミュニティづくりの可能性

—教育からスポーツ・環境・福祉・観光・産業・信仰まで波及展開する学習地域づくり諸相—

はじめに—実習と新たな社会教育人材の養成に向けて— 出川真也 4

2018年度活動の概要 7

I. 生涯学習施設実習

- (1) 社会教育施設で“学ぶ”楽しさ広がる“未来”—「みらい館大明」における異文化理解と子ども体験活動事例から— 平良菜月 11
- (2) 学生地域ガイドによる地域の次世代育成 早川 誠 23
- (3) 地域における健康・スポーツ学習の可能性 水野梨奈 35
- (4) 地域活動から地球環境の保全へ—玉川上水の自然保護活動を通じて— . . . 篠田莉音 49

II. 個人研究実践

- (1) 理想の学生生活の構築を目指して—ピア・サポート、ピア・ラーニング活動報告— 増山友香 63
- (2) 省察・実践するコミュニティへの試み—大正大学ラウンドテーブル実施報告— 平良菜月 杉浦寛生 早川誠 73
- (3) 寺院と地域の関わり構築に向けた実践—「しゅりる」高齢者の地域包括支援ネットワーク作り— 杉浦寛生 84

III. 研究ノート

- (1) 塩竈の自然と文化に根ざした子どもの多世代交流と学びの居場所作り . . . 平良菜月 増山友香 松下遥奈 佐藤朱莉 大塚未来 安田陸人 早川誠 田邊孝顕 杉浦寛生 91
- (2) 新潟県粟島・阿賀町における地域教育実践活動の経過報告 出川真也 102
- (3) 「あきた元気ムラ山菜ネットワーク」を中心としたワークショップ及び調査活動の経過報告 佐藤絵里花 伊藤奈々江 出川真也 108
- (4) 寺院を拠点とした社会教育活動の試行実践研究（北海道滝川市運海寺） 杉浦寛生 田邊孝顕 増山友香 出川真也 113

おわりに 出川真也 116

はじめにー実習と新たな社会教育人材の養成に向けてー

生涯学習施設実習担当教員

出川 真也

1. 社会教育主事課程の改正についてー社会教育実習の必修化と「社会教育士」の創設

2020年社会教育主事養成課程が改訂され、カリキュラムの変更が行われることとなる。ファシリテーション方法を取り扱う生涯学習支援論や社会教育における経営的視点を盛り込んだ社会教育経営論が創設されるほか、社会教育実習が必修化されることが着目される。全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）の調査¹によると、社会教育実習実施校は全体の半数に留まっており、必修化によって実習生が倍増することが予想される。

もう一つ着目されるのが、課程修了者にはこれまでの社会教育主事の任用資格に加え、「社会教育士」の称号が与えられることである。「社会教育士」というこの新しい概念は、従来、行政における社会教育業務に従事する人材養成を想定していた当課程の守備範囲が名実共に大きく広がったことを意味している。この場合の「名実」とは実際には既に広がっていた現場状況に対して、制度においても具体的に概念構築され、名前が与えられたということとなろう。文科省は「社会教育士」には、講習や養成課程の学習成果を活かし、NPOや企業等の多様な主体と連携・協働して、社会教育施設における活動のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる役割が期待される²としている。

今、我が国の「社会教育界」では、実習による現場実践力の向上と育成人材の様々な分野での活発な活用に向けて、まさに官民一体となって取組が加速しているところといえよう。

2. 大正大学における多様な実習等の実践研究活動の展開

そのような中で、大正大学社会教育主事課程の主要科目の一つ「生涯学習施設実習」（通年・4単位）では、今年度も引き続き、多様な分野の実習地を設定し各学生の課題研究を推進してきた。生涯学習施設実習は、法定科目である社会教育実習、社会教育演習、社会教育課題研究を合わせた形で設定されている。学生が独自の関心テーマを設定し、社会教育現場での体験・実習を行うとともに、現場の活動者からの刺激を受けながら、各自の課題を探究していくことができるのが大きな特徴といえる。

また、今年度は特に正課授業とは別に、課外活動として、有志の学生が社会教育・生涯学習の考え方や方法・手法を用いて、企画実践を行ってきたことも大きな成果であると言える。また、過年度より行っている主に地方地域をフィールドとした研究室のプロジェクト研究も引き続き行われ、地域の方々との学びの成果が地域づくりの具体的成果に結びつこうとしている。

¹ 社養協 2012年調査報告書参照

² 文科省 2018「社会教育士」について資料1ー2 参照

これらはいずれも今回の文科省制度改訂の趣旨を先取りしたものであるといえよう。

3. 共に試行錯誤を続ける学びを

現代社会のような変化が激しく不確実要素が大きくなり、かつ様々な形で市民参加と自己決定が求められる時代において、「試行錯誤」を続けるような学び、そして「ボトムアップ型」の学びは、その重要性を益々高めているといえる。

今回の文科省社会教育主事課程の改定をはじめ、社会教育行政の首長部局への移管、会計年度職員制度など、社会教育行政・制度をめぐる変更は、確かに大きなトピックではある。だがこれを機に、制度論を超えたより大きな枠組みから社会教育・生涯学習の学びの本質について改めて捉えなおし、かつ現場の実践的視点から、具体的な取組や仕組みを「手作り」で推進していくことこそ、今、求められているのではないだろうか。それは、主体形成から自治育成、暮らしと生業づくり等に至るまで、まさに幸福に生きるための実学としての社会教育像である。そうした視野に立った上で行政・制度論的考察を深め、取組んでいく必要があると考えるのである。

以上を踏まえると、地域の人々と「共に」「模索」しつづけ、その社会的実践に寄与する学びの創出にかかわる社会教育人材の養成は極めて重要であることがわかる。その現場と養成校が接触する養成の最前線に「実習」があるのである。

4. 現場と養成校をつなぎ研究・教育・実践を推進する新たな連帯の動き

筆者が所属する全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）では、2018年夏「社会教育実習支援ネットワーク」ワーキンググループを設立した。微力ながら筆者はこの事務局長を務めさせていただいている。

このネットワークでは、2020年度カリキュラム改訂で必修化される「社会教育実習」を機軸として、現場と養成校の連携強化、現場実践の活性化への直接的寄与、養成教育の質向上と研究の高度化、育成人材の活用促進に取組もうとしている（図参照）。従来の教育委員会関係業務だけでなく、

福祉・環境といった行政の他部署や NPO や一般企業を含む地域社会に寄与するあらゆる業態との「学習」を軸としたネットワークを形成し、社会教育の研究・教育・実践を一体的に推進していこうとしている。実学的学びの実践を志向するネット

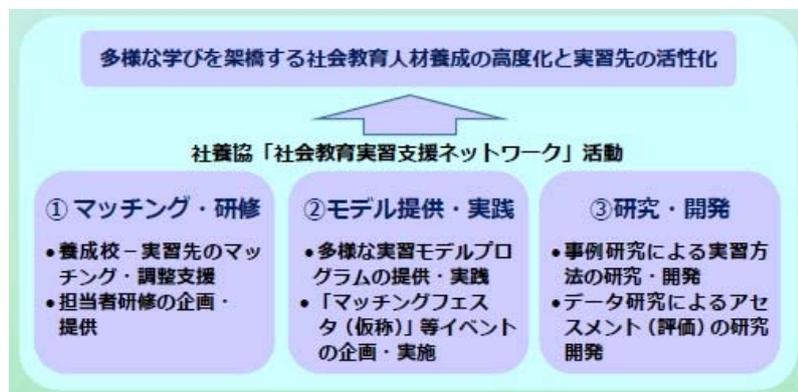


図 社会教育実習支援ネットワークの活動概要

ワークであると言える。

今後の社会教育人材養成の現場では一学生・一施設・一大学・一教員といった閉じた枠組みを超えて、様々な主体とつなぎ学びあうことが益々求められる。社会教育実習支援ネットワークの活動はまだ緒についたばかりであり今後の展開可能性は未知数だが、この「業界」の中でもとりわけ楽しい愉快的メンバーが集いつつある。「楽しさなくして参加なし」という言もある。楽しく愉快的つながりを構築しながら、より広い視野で展望し、かつ足元の実践に地道に取り組んで着実に成果を積み重ねることで、豊かな地域社会作りに寄与できる社会教育業界の盛り上げに寄与したい。その意味でも養成校の責務は益々その重要性を高めているのである。

参考資料・文献

全国社会教育職員養成研究連絡協議会.2012.

大学における社会教育主事課程に関する調査 社会教育実習実態調査. 社養協
文科省.2018.「社会教育士」について . 科省社会教育主事課程説明会資料 1-1
社養協 社会教育実習支援ネットワーク.2019.社会教育士の養成と実習 社養協

2018 年度活動の概要

生涯学習施設実習科目を担当する出川真也研究室では、社会教育関連活動として、1 生涯学習施設実習科目の運営、2. 学生の個人研究実践の支援、3. 研究室プロジェクト研究の推進、4. 発信その他活動に取り組んだ。

1. 生涯学習施設実習科目の運営

事前研修活動として、東京農業大学の杉野卓也氏をお招きしたディスカッションや、神奈川県立芸術の家において子ども体験活動の支援実践を含めた1泊2日のキャンプ活動と実習計画設計ワークショップを行った。学生の個別実習活動については本書 I 章参照のこと。



写真 杉野卓也氏をお招きしたディスカッションと振り返り活動



写真 神奈川県立芸術の家におけるキャンプワークショップの様子

2. 個人研究実践活動の支援

当研究室が主宰する地域社会教育研究会の学生有志による個人研究実践活動として、ピアサポート・ピアラーニング活動、ラウンドテーブルイベントの開催、寺院を活用したコミュニティ活動（「しゅりる」）の3プロジェクトを支援した。詳細は本書Ⅱ章の通り。

3. 研究室プロジェクト研究の推進

当研究室教員によるプロジェクト研究を推進。新潟県粟島浦村と阿賀町室谷地区における実践調査、秋田県元気ムラ山菜ネットワーク活動での取材調査及びワークショップの実施、北海道滝川市運海寺における社会教育試行活動の予備調査等を実施した。詳細は本書Ⅲ章参照のこと。

4. 発信その他活動

早稲田大学留学生巣鴨まちあるき案内の支援（詳細はⅠ章早川レポート参照）、鴨台祭における研究発表、早稲田大学（11月）、東京学芸大学（12月）、福井大学（2月）で行われた省察と実践コミュニティラウンドテーブルへの参加、実習先の一つである玉川上水の自然保護を考える会のお誘いによる玉川上水の見学・散策会を実施するとともに、全国社会教育職員養成研究連絡協議会による社会教育実習支援ネットワーク構築に写真・資料を提供するなどの協力活動を行なった。



写真 早稲田大学の留学生との巣鴨まちあるき活動から1



写真 早稲田大学の留学生との巣鴨まちあるき活動から2



写真 鴨台祭研究発表コミュニティカフェで行われた、地域音楽団体によるコンサート



写真 玉川上水散策会の様子

社養協と社会教育実習支援ネットワーク

全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）は、社会教育職員制度の拡充に向けた研究など各種の活動を進めてきました。これまでの成果を活かして、養成校と実習先（人材活用先）をつなぐ社会教育実習を基軸とした養成・研修・採用に役立つネットワークを構築しています。養成校のねらいや学生のニーズ、実習先の要望に応じて、効果的なプログラムをデザインしていきます。

「社会教育実習支援ネットワーク」サイト
<https://sites.google.com/view/shazissyunet>



多様な学びを架橋する社会教育人材養成の高度化と実習先の活性化

社養協「社会教育実習支援ネットワーク」活動

- | | | |
|---|---|---|
| ① マッチング・研修 <ul style="list-style-type: none"> 養成校－実習先のマッチング・調整支援 担当者研修の企画・提供 | ② モデル提供・実践 <ul style="list-style-type: none"> 多様な実習モデルプログラムの提供・実践 「マッチングフェスタ（仮称）」等イベントの企画・実施 | ③ 研究・開発 <ul style="list-style-type: none"> 事例研究による実習方法の研究・開発 データ研究によるアセスメント（評価）の研究開発 |
|---|---|---|

本ネットワーク参加のメリット

- 実習先情報提供・マッチング支援
- 社会教育実習データベースの利活用
- 課程担当者・実習先担当者向けプログラムの提供
- 実習モデル・評価方法の開発と提供
- その他、課程運営全般に関する相談

【問合せ・連絡先】

全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）
 東京学芸大学 総合教育学系 生涯教育分野 倉持研究室
 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
 TEL：042-329-7353
 E-Mail：shayosei@outlook.com
<http://syayoukyou.web.fc2.com/index.html>

協働による学生の主体的学びの創造

社会教育士の養成と実習

Learning by Doing



社養協 社会教育実習支援ネットワーク

（養成校・大学関係者向けパンフレット）



【社会教育士とは】

国が定める社会教育主事養成課程（2020年4月施行）修了者に、「社会教育主事」資格に加えて、「社会教育士」の称号が与えられることとなりました。地域の教育・福祉・防災・環境・地場産業などの領域で、人々の学びの支援やネットワークづくりを通して人づくりや地域づくりに関わる役割を担います。



【養成課程のねらい】

- 課程運営を通じた大学の社会貢献・地域貢献
- アクティブラーニング・サービスマーケティングによる主体的に社会で生きる力を育成
- 社会に開かれた学校づくりを支える基本的知識・能力の獲得
- 多様な領域（まちづくり・医療・福祉・環境・農業・アート・スポーツ・企業CSR等）で活かせるコーディネート力の育成



【カリキュラムの内容－実習の必修化】

ファシリテーター・コーディネーターとして学習を支援したり、多様な主体をつなぎ協働を促すめりする「実践的能力」を養成する「生涯学習支援論」と「社会教育経営論」や、「社会教育実習」が必修となっています。



実習受け入れ側の声

実習生を受け入れることによって、改めて業務の見直しができ、担当職員の学びになった。

実習受け入れ側の声

事業を大学生の新鮮な視点で力強く展開することができた。



【社会教育実習の例】

- 実習は社会教育士養成の核となるもので様々な方法、形態、内容で行うことができます。
- 公民館や児童館で来館者対応や事業企画
 - 事業運営など一日の業務を5日間連続して体験
 - 青少年自然の家主催の小学生を対象とした6泊7日のキャンプ活動に参加
 - NPOや企業と連携して毎月実施する異世代交流事業を企画・運営



【実習の方法】

- 施設や活動の参観実習
- 実習先が提供するプログラムへの参加・体験
- 実習先と大学が協働してプログラムを開発するプロジェクト型



【実習先】

- 社会教育・生涯学習施設
- 地域学校協働活動
- 教育委員会事務局、首長部局
- NPO・ボランティア団体
- 企業など



学生の声

理論と実践をつなげてとらえることができ、資格を活用する仕事の具体的なイメージがつかめた。



学生の声

いろいろな人と交流し活動することで自信が付き、コミュニケーション力が向上した。



写真 当研究室による写真提供等の協力により作成された社養協社会教育実習支援ネットワークのパンフレット「社会教育士の養成と実習」より